～　平成30年度アユを増やす取組について～

太田川再生方針に基づく方策　～アユを増やす取組～

資料2

【短期的な方策】
○　余剰種苗の放流
○　産卵場の維持・造成

【中期的な方策】
○　禁漁期間、区間の設定
○　晩期親魚放流
○　漁法の制限

【長期的な方策】
○　アユ仔魚の流下促進
○　稚魚遡上促進
○　親魚流下促進
○　太田川放水路の活用

具体な検討内容は、
①高瀬堰の運用
②祇園水門・大芝水門の運用

短期的・中期的な方策に基づく取組状況

余剰種苗の放流（短期的な方策）

○目的

天然遡上を増やすため、アユ種苗の生産過程で発生した余剰種苗（体長40mm程度）を放流した。

○実施者

広島市、太田川漁業協同組合

○実施場所

太田川放水路河口周辺（旭橋周辺、観音マリーナ周辺）

○放流実績

（万尾）

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
20.0	17.1	23.7	49.2	32.4	99.7	3月15日 放流予定

産卵場造成（短期的な方策）

○目的

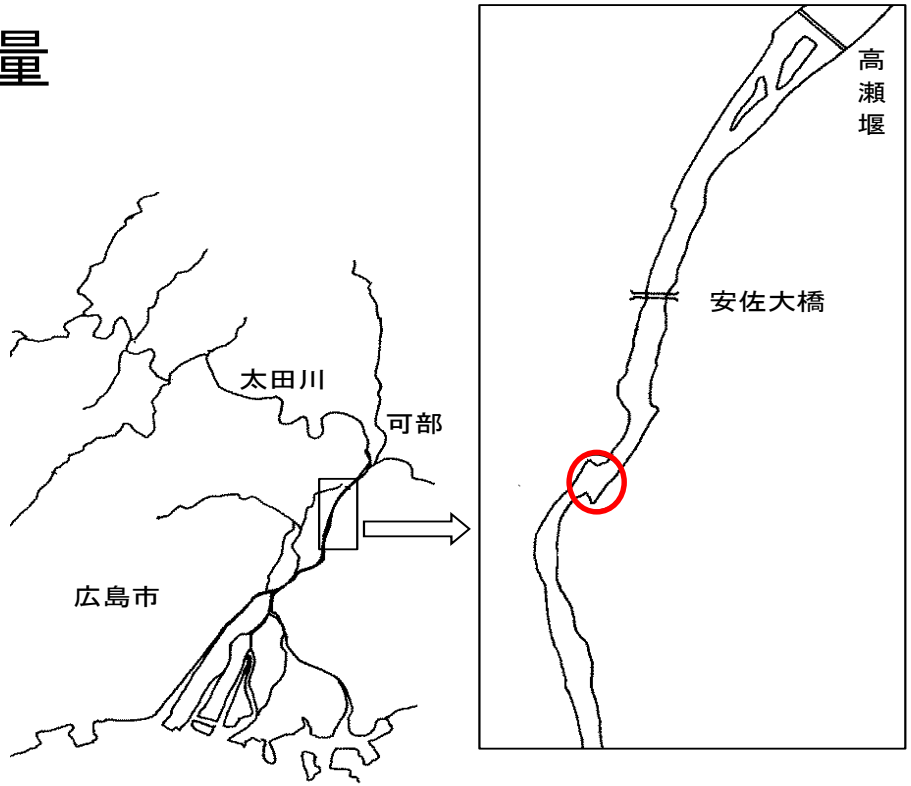
産卵環境を改善し、アユの産卵量を増やすため、産卵条件に適した産卵場を造成した。

○実施者

太田川漁業協同組合
広島市

○実施場所

安佐大橋下流1km地点
（安佐北区口田南地先）



○実施状況

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
○ （1300㎡造成）	中止 （豪雨災害）	○ （200㎡造成）	中止 （天候不良）	中止 （天候不良）	中止 （産卵状況が良好であったため）

平成30年度の産卵状況調査結果は、資料3を参照。

禁漁区・禁漁期間の設定（中期的な方策）

○目的

産卵期の親魚を保護するため禁漁期間と禁漁区間を設定した。

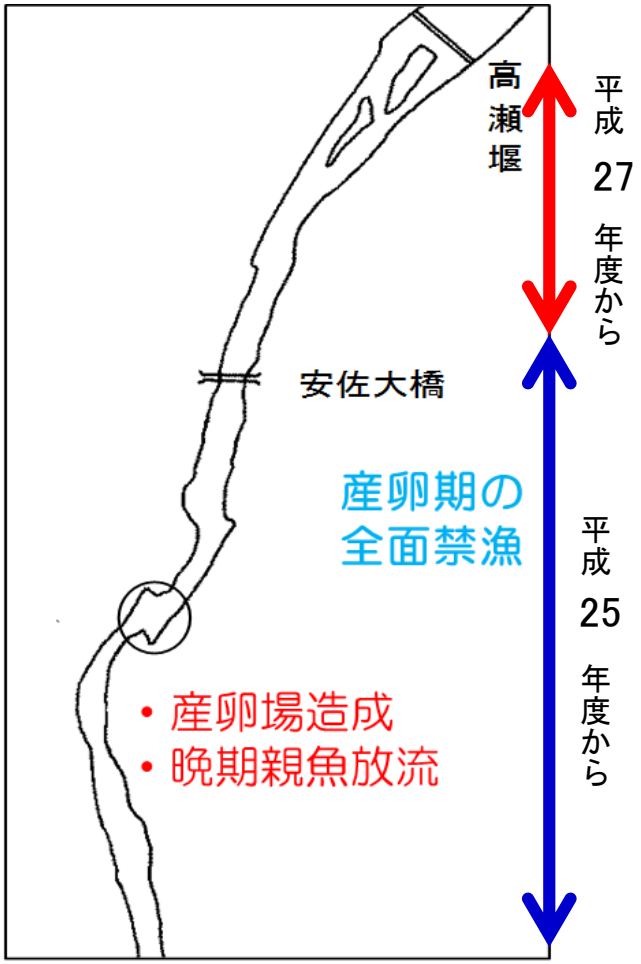
○実施者

太田川漁業協同組合

○実施状況

	平成25～26年度	平成27年度～
禁漁期間	10月1日～11月15日	10月1日～11月15日
禁漁区間	祇園水門～安佐大橋	祇園水門～高瀬堰 （区間拡大）

平成30年度も平成27年度と同様に実施した。



晩期親魚放流（中期的な方策）

○目的

アユの産卵量を増やすため、造成した
産卵場周辺に産卵期の親魚を放流した。

○実施者

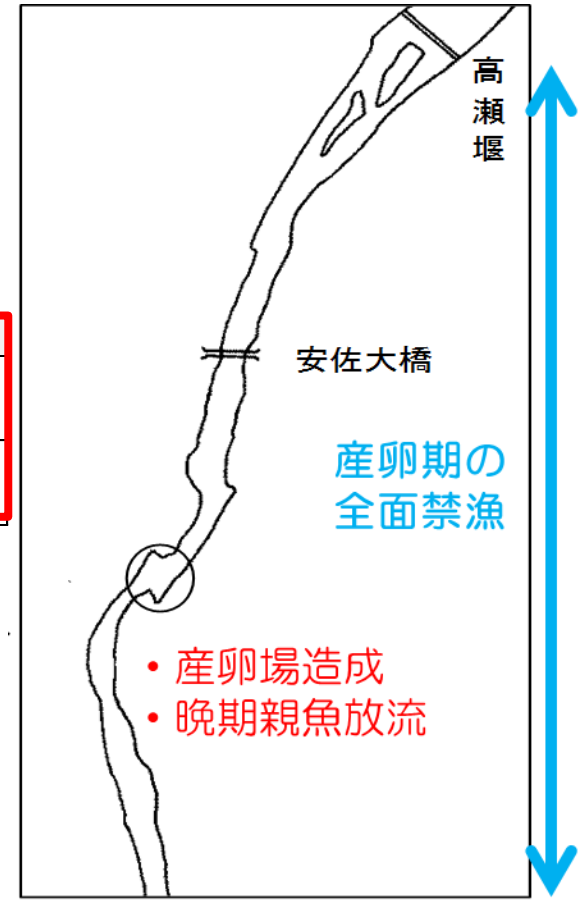
太田川漁業協同組合

○実施状況

（尾）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
放流尾数	10,000	10,000	5,000	8,000	5,500	8,000
放流時期	10月中旬	10月中旬	10月中旬	10月下旬 11月上旬	11月上旬	11月中旬

平成28年度からは、海水温がアユ仔魚の適正水温（20℃以下）
となる時期を考慮し、放流を実施した。

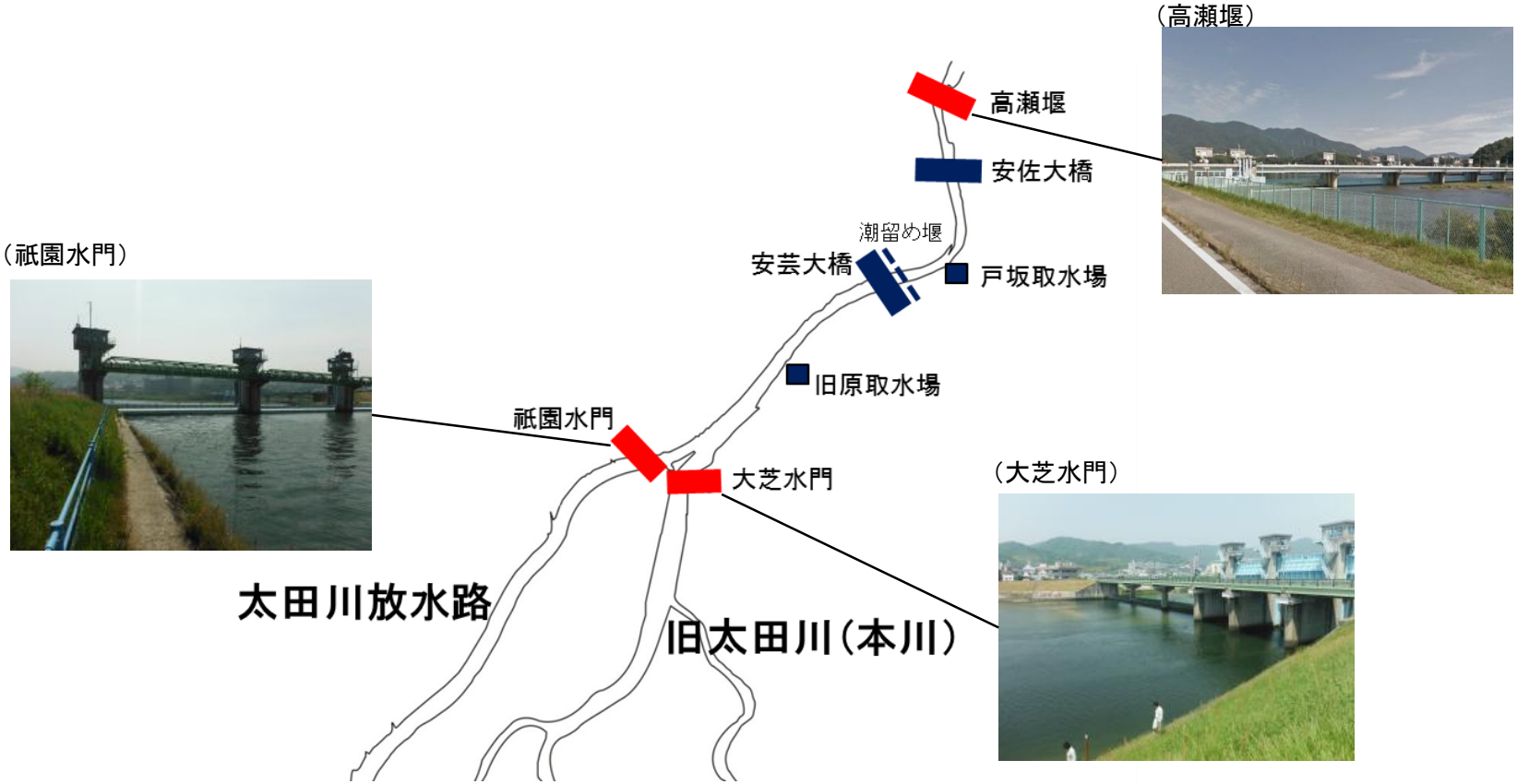


長期的な方策に
基づく取組状況

長期的な方策の実施に向けた検討

長期的な方策とは
アユ資源の回復を目指し、アユの生態に配慮した堰や水門の運用（アユにとって望ましい利水運用）を行うこと。

① 長期的な方策に基づく高瀬堰の運用
② 長期的な方策に基づく祇園水門・大芝水門の運用



高瀬堰の試験的な運用

○目的

アユ産卵期に、高瀬堰において、通常放流に加えて、可部発電所の放流を利用し、アユ仔魚が降下する夜間の放流量を増加させ、アユ仔魚の流下を促進する。

○実施者

国土交通省中国地方整備局
太田川河川事務所

○実施状況

平成30年10月23日～11月30日の期間で試験的な運用を実施

効果検証結果は、議題2で

アユのふ化仔魚。全長6mm程度。

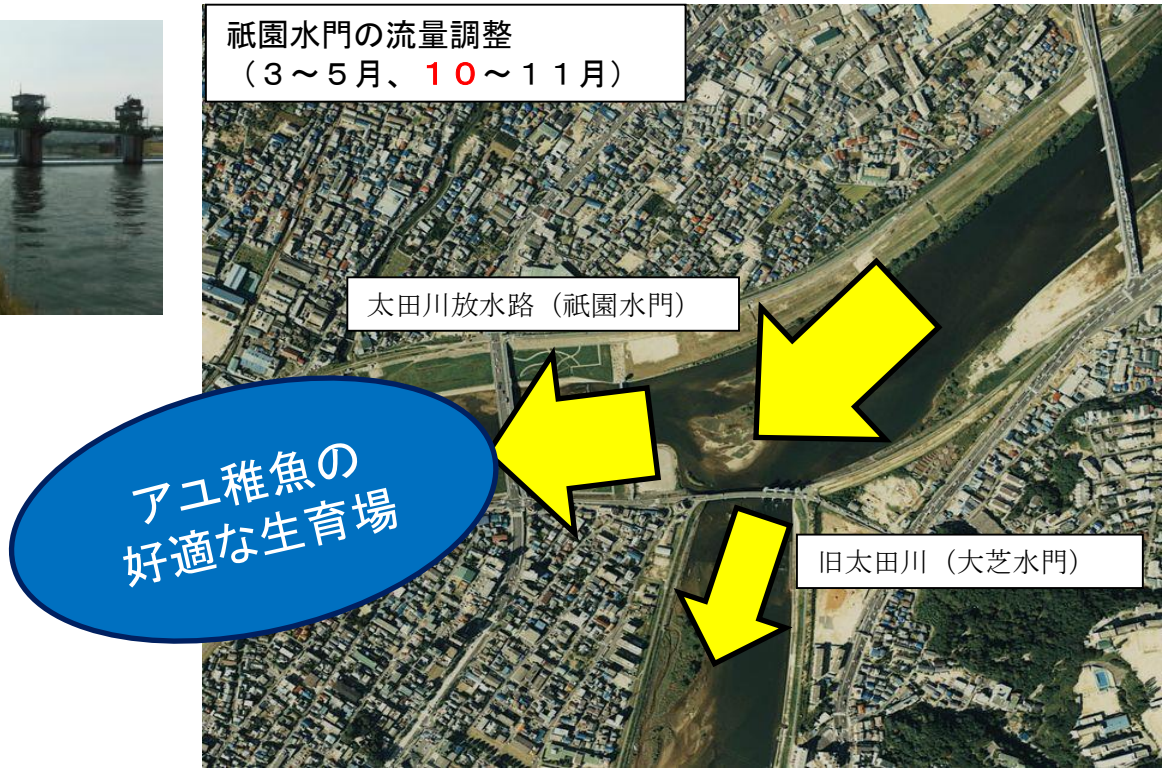
祇園水門・大芝水門の運用の検討

○目的

アユ産卵期（遡上期）に、祇園水門の運用により、アユに稚魚の成育に適しているとされる太田川放水路側（祇園水門）の流量を増やす。

○ 太田川放水路の仔稚魚の育成場としての活用
（アユ仔魚の流下促進）
（遡上期の稚魚の遡上を促進）

（祇園水門）

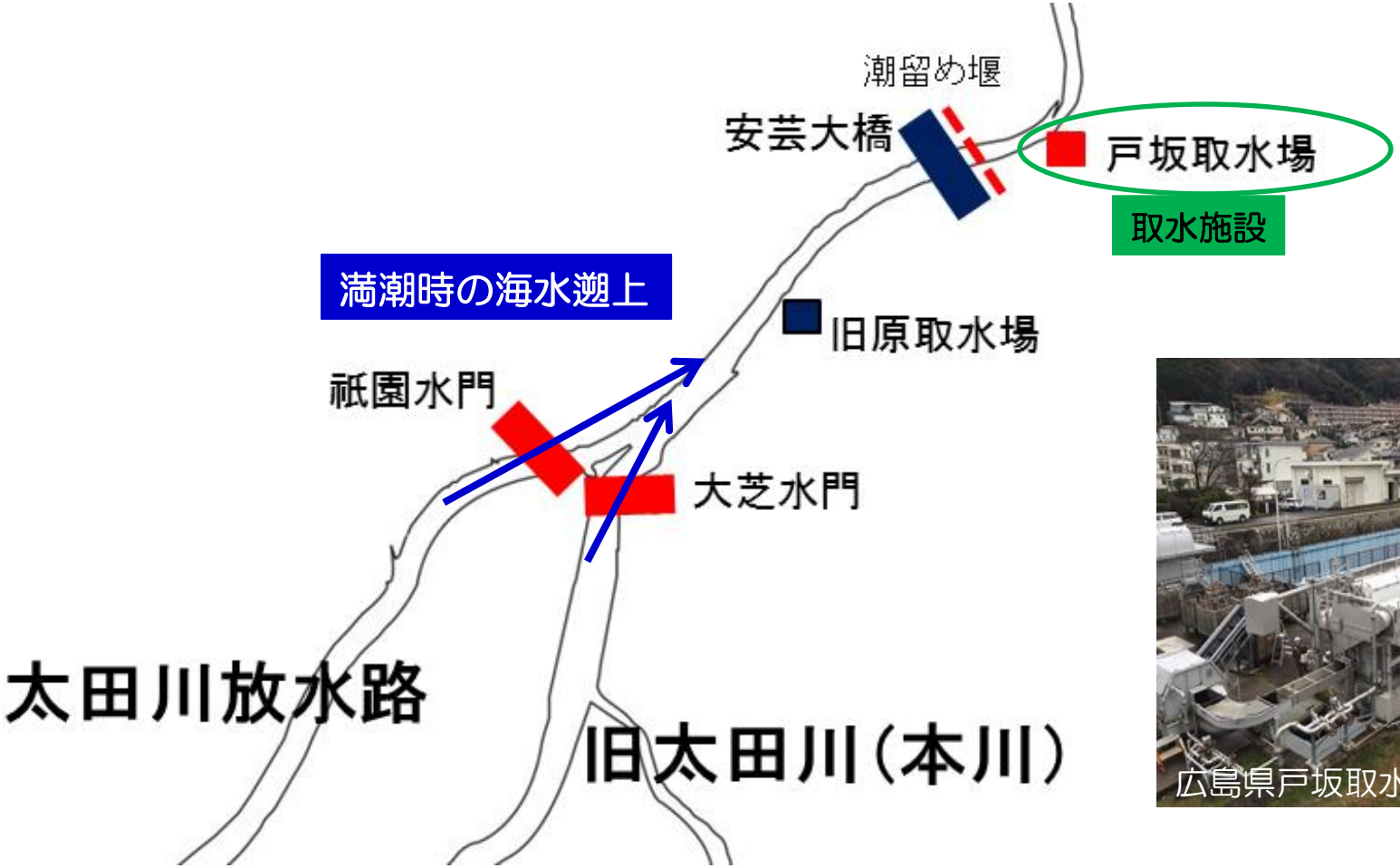


（大芝水門）

祇園水門・大芝水門の運用に伴う課題

海水の遡上による水道取水業務への影響

・流量比を変えることで、海水の遡上の影響が出る可能性がある。
・大芝水門、祇園水門上流には広島県、呉市、広島市の水道取水施設があり、**取水する水に海水が混じることは許されない。**



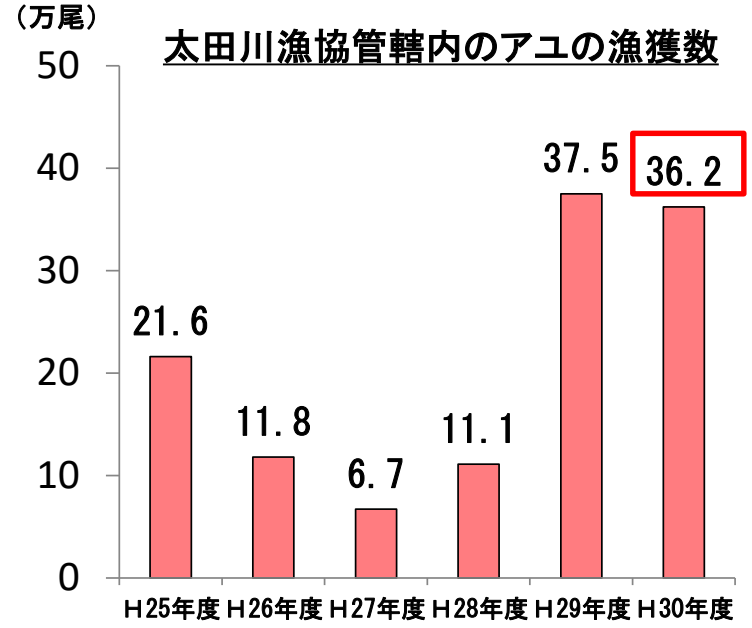
広島県戸坂取水場

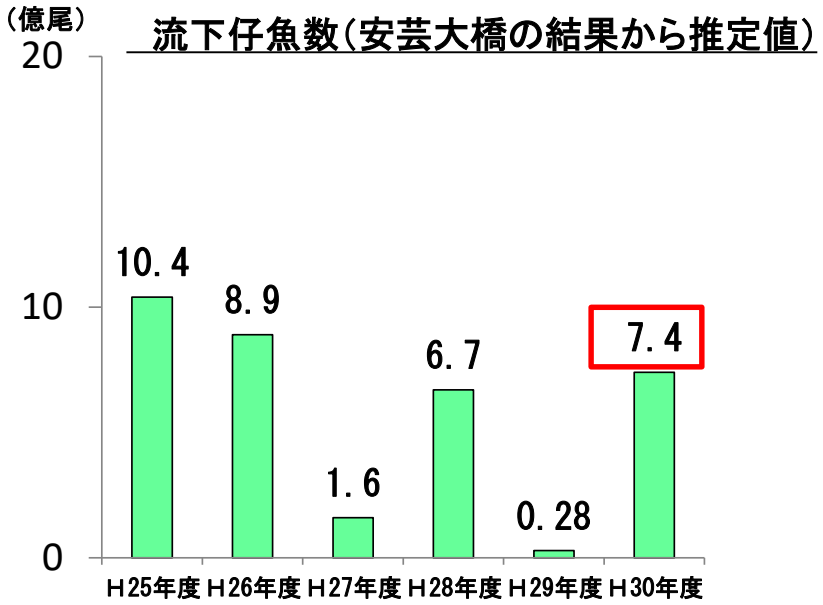
祇園水門・大芝水門の運用の取組状況

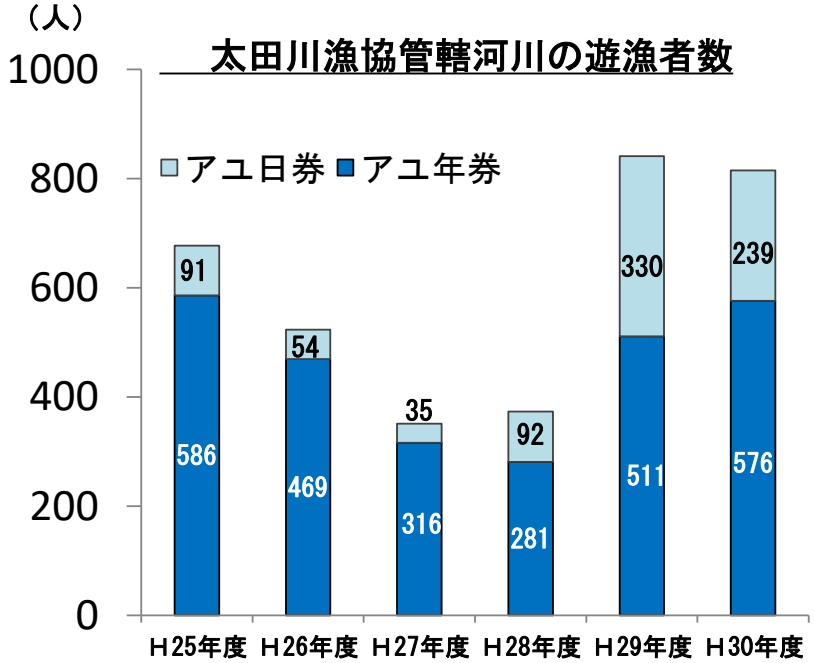
平成30年度第1回太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会において、仔魚の流下促進という目的に絞り、塩水遡上の影響が少ない下げ潮時に限定して、試験運用を実施することを検討することに

・平成31年6月頃を目安に、改めて、太田川河川事務所、水道事業関係者、事務局で祇園水門・大芝水門の試験運用作業部会を開催し、具体的な実施方法を検討する。

平成30年度の状況について







○漁獲数

直近2ヶ年とも、35万尾以上の漁獲があった。
（放流数量は、毎年約90万匹と一定）

○遊漁者数

直近2ヶ年は、増加傾向に

○流下仔魚数

7.4億尾と直近3ヶ年のうちでは最も多い。